

2017年12月17日

かわさき子どもの権利フォーラム主催

「みんなで学び、活かす、子どもの権利」の集い

各グループの話し合い

- 1 外国人の子どもたちへの支援について考える (2人+2名)
  - ・外国人の『匂い』の問題で差別される。
  - ・「あるある居場所」をつくりたい。
  
- 2 障がいのある子どもたちへの支援について考える (7人+2名)
  - ・子どもの利益を最優先にして考えて欲しい。
  - ・地域教育会議が形骸化してほしくない。
  - ・子どもの支援が法律や制度で縛られることが多い。
  - ・子どもの抱えている問題を教員に理解してほしい。
  - ・支援する人と場所が大切-子どもたちのニーズに敏感になってほしい。
  
- 3 いじめ・不登校の課題について解決の方向を考える (12人+2名)
  - ・不登校の子どもが午後から学校へ行ったら、先生が午後から来てもしょうがないだろうと言った。
  - ・欠席する時は、毎朝連絡しなければダメと言われ、苦しんでいる。
  - ・不登校の現状を、もっとたくさんの人に聞いてほしい。管理職の人に現状を理解してほしい。
  
- 4 寺子屋や子ども食堂の役割について考える (5人+2名)
  - ・子ども食堂は、貧困のイメージが強い。
  - ・食事をするをきっかけとして、居場所づくりをしたい。
  - ・おとなが頼ってもいいという居場所にするのが大切だ。
  - ・子どもの情報を持っているのは学校という認識が必要だ。
  - ・学校と地域の情報の点と点が繋がれるようにして、子どもを受け入れる場所となればよい。
  
- 5 子ども会議など「子ども参加」について考える (5人+2名)
  - ・子ども参加は、子どもの能動的な活動を支援していくことが大切。
  - ・参加型遊びから入っていきたい。
  - ・子ども会議は、市と区と中学校区の3段階。子ども会議の構成が難しい。
  - ・子ども会議のテーマが大人主導になりがち。子ども主体にすすめたい。
  
- 6 子どもの権利学習について考える (5人+2名)
  - ・権利という言葉に抵抗がある。権利学習をするとわがままになると思っていた。
  - ・「権利」という言葉がハードルが高い。具体的なことを伝えていくと権利が分かる。
  - ・父親学級をしている。お父さんにとっては仕事もあるし、家庭もある「権利」で子どもを見るのは難しいので、一人の人間として尊重しつつ、対等に見ていくことだと思う。
  - ・いじめや児童虐待の実態を見ると、今の時代は、子どもの「権利」を考えなければならない状況にある。
  - ・子どもの権利を保障するということは、子どもにとって当たり前のことが当たり前に行われるということ。
  - ・子どもは、大人を見て育つ。大人が権利のことが分からなければいけない。
  - ・一人ひとりの子どものことをよく見て、必要な対応をしていくということだと思う。
  
- 7 乳幼児の子どもの権利について考える (8人+2名)
  - ・行政やNPO、子育て支援者に「子どもの権利」をどう伝えていくかが課題。
  - ・おとなが幸せにいてほしい。保護者が追いつめられてしまうことがある。子ども支援のために保護者支援が大切である。
  - ・子どもの権利に関するパンフや絵本を楽しいイベントの中に盛り込んで行ったらどうだろうか。
  - ・子どもに言い分をしっかりと聞いて、だめなこともしっかりと伝える。ある場面をお頼りにして発信した。子どもに対するおとなの接し方をしっかりと伝えたい。
  - ・若いお母さん方には、SNSを使って発信していくことも効果的だ。

## 荒牧教授まとめ

- 1 子どもの権利を基本に置くとはどういうことか。子どもの願いに向き合う。子どもの思いを受け止めるということ。同時に、子どもに関わる人の権利保障を進めていくということだ。
- 2 川崎市は、条例を作って、「子どもにやさしい町づくりをしていこう」「市民の考え方も少しずつ変えていこう」とした。条例で、子どもを直接支援することは、一つの大きなチャレンジであった。
- 3 権利フォーラムのような場が大切。子どもを支援するには、人と場が大切になる。人と人をつなぐ役割が重要になる。「子どもの権利」を学び、活かすことは、大変難しい作業である。自分自身がそのことに少しずつ取り組んでいくことが大切になる。粘り強く、しつこく、このような場を設けていきたい。